

看護系大学の教育等に関するデータベース  
2008年度状況調査

日本看護系大学協議会 会長 中山 洋子

データベース整備・検討委員会

委員長 太田 喜久子

委員 濱田 悦子 山下 香枝子

香春 知永 野村 美香 平林 優子

## はじめに

日本看護系大学協議会の会員校である看護系大学を対象とする本調査は、日本の医療や社会状況に対応する看護教育のあり方やグローバルな看護教育・研究を検討する上で、また看護の大学教育が果たしている社会貢献や研究活動を発信する上で、あるいは政策等への提言などの基礎資料として価値あるものである。また、各大学において今後の展望を検討する際に貴重な参考資料となると考えられる。

本調査は、1999年に「21世紀に求められる看護学教育」を検討する過程で、種々の看護系大学の学習環境、教育内容、社会的役割の現状を数量的データとして把握する必要性から開始され、10年を超える歴史を持っている。本調査は、日本看護系大学協議会事業の一環として総会で承認され、全数調査をめざして実施されている。

調査の担当は、1999年～2001年度までは「データベース整備委員会（代表：濱田悦子）」、2002年度～2008年度までは協議会事務局、2009年度から「データベース整備・検討委員会（委員長：9月まで山下香枝子、10月から太田喜久子）」がその任を負っている。

昨年（平成20年度）の日本看護系大学協議会平成20年度事業活動報告書におけるデータベース状況調査報告は、2003年度～2007年度の年度比較を含めた報告がなされている。

今年度の本報告は、2008年度に学士課程を開設している会員校168校を対象とした2008年度の状況調査結果をまとめたものである。また結果の解釈における2007年度との比較は、平成20年度事業活動報告書のデータベース状況調査報告を参考にしている。

調査項目は、1. 開講状況、2. 学部、大学院の学生状況、3. 教員の状況、4. 国際交流、5. 看護関係の附属研究機関、6. 図書館、7. リスクマネジメント、という内容から成っている。

今回の調査は、168校に依頼し、147校から回答を得ることができた。回収率は87.5%であり、内訳は下記表のとおりである。

2006年度から実施しているWebによる調査は、回答方法の改良が加えられてきたが、まだ困難な点があり今後も対策を検討していく。また、調査内容については、継続して行う基本調査と特定の目的で行う調査との選別を行い、できるだけ回答に負担がかからず、なおかつ目的にかなうものとなるよう考慮していく予定である。

会員校には、本調査の趣旨をご理解いただき、なお一層のご協力をお願い申し上げるとともに、調査にご協力いただいた会員校、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

### 2008年度状況調査回収状況

	全体	国立大学法人	公立	私立
配布数	168	43	43	82
回答校	147	41	40	66
回収率%	87.5%	95.3%	93.0%	80.5%

## 項目目次

1. 開講状況
  - 1) 学部の開講状況
  - 2) 大学院の開講状況
  - 3) 完成年度を迎えている大学
2. 学部、大学院の学生の状況
  - 1) 在学生数
  - 2) 入学状況
  - 3) 卒業・修了状況
  - 4) 編入学制度、社会人入学制度、科目等履修制度等の状況
  - 5) 卒業、修了時点の進路
3. 教員の状況
  - 1) 大学の教員数
  - 2) 教員の研究活動
  - 3) 看護系大学の社会貢献
  - 4) ファカルティディベロップメントの実施状況
4. 国際交流
  - 1) 国際交流協定校
  - 2) 留学生
  - 3) 教員の海外派遣
  - 4) 海外からの受け入れ
5. 看護関係の附属研究機関
6. 図書館
7. リスクマネジメント

## 調査の概要

### 1. 開講状況

#### 1) 学部の開講状況 (表1)

学部の開講状況については、147校から回答が得られ、すべての大学が『昼間開講』であった。

表 1. 大学の開講状況(学部) (校)

	全体	国立大学法人	公立	私立
昼間開講のみ	147	41	40	66
夜開講のみ	0	0	0	0
昼夜開講	0	0	0	0
合計	147	41	40	66

#### 2) 大学院の開講状況(表 2、表 3)

大学院については、開設していると回答したのは 102 校で、『昼夜開講』が最も多く 71 校 (69.6%)、次いで『昼間開講』が 29 校 (28.4%) であった。大学院の『夜間開講』は国立と私立に 1 校ずつであった。

表 2. 大学の開講状況(大学院) (校)

	全体	国立大学法人	公立	私立
昼間開講のみ	29	5	12	12
夜開講のみ	2	1	0	1
昼夜開講	71	35	21	15
合計	102	41	33	28

大学院の修士課程で専門看護師課程を開設していると回答した大学は、53 校 (修士課程を開設していると回答した大学の 52.0%) であった。がん看護が 31 校と最も多く、小児看護、老年看護が 24 校、精神看護、慢性 (成人) と続いていた。

#### 3) 完成年次を迎えている大学(表 4、表 5)

学部について回答のあった 147 校のうち、完成年次を迎えているのは、115 校であった。また、前述したように修士課程を開設しているのは 102 校で、このうち 92 校が完成年次を迎えていた。博士課程については、回答のあった 147 校中 52 校が開設していると回答しており、このうち 38 校が完成年次を迎えていた。

これらを設置主体別にみると、学部で完成年次を迎えている 115 校のうち、国立が 41 校、公立が 37 校、私立が 37 校とほぼ同数であった。一方、大学院について完成年次を迎えているの

表 3.

#### 開設されている専門看護師課程

分野	校数
がん	31
慢性(成人)	14
母性	11
小児	24
老人	24
精神	19
家族	4
感染	5
地域	13
クリティカルケア	13
在宅	5

は、やや国公立が多かった。修士課程では、国立 39 校、公立が 29 校、私立が 24 校であり、博士課程については、国立が 13 校、公立が 17 校、私立が 8 校であった。

表 4. 完成年次を迎えているか

	迎えている	迎えていない	開設していない
学部	115	32	—
修士課程	92	10	45
博士課程	38	14	95

表 5. 完成年次を迎えている大学数(設置主体別)

	国立	公立	私立
学部	41	37	37
修士課程	39	29	24
博士課程	13	17	8

## 2. 学部、大学院の学生の状況

### 1) 在学生数(表 6)

2008 年 5 月の完成年次を迎えた学部および大学院に在籍する学生数は、44,386 人であった。科目等履修生・研究生等を除いた学生数は 43,912 人で、そのうち男子学生が 4,294 人(9.8%)を占めており前年比 0.3%増加していた。学部の編入生数に関しては、2006 年度以降減少の傾向にあった。

大学院生は、専門看護師課程を含む修士課程/博士前期課程ならびに博士後期課程の学生数はすべて前年に比べ増加の傾向にあった。

表 6. 看護学専攻の在学生数 (2008 年 5 月完成年次を迎えた大学) (人)

		合計	男	女
学部 : 校数=115	全体	39,961	3,891	36,070
	上記のうち編入生	1,823	105	1718
修士課程または博士前期課程 : 校数=92 (内、専門看護師課程開設校数: 校数=50)	修士論文課程	2,758	306	2452
	専門看護師課程	288	18	270
博士後期課程 : 校数=41		905	79	826
科目等履修生(聴講生含む) : 校数=41		240	—	—
研究生・留学生 : 校数=42		224	—	—
その他 : 校数=1		10	—	—

### 2) 入学状況(表 7)

2008 年度学部入学志願者数は延べ 61,067 人で定員 14,080 人に対して約 4.3 倍の数であった。入学者数は 12,542 人であり定員数より少ない人数となっていた。また、志願者で男子学生は約 11.4%を占めているが、入学者では 10.2%となっていた。

大学院では修士課程で定員数 1,546 人に対して、1,806 人の志願者となっており、入学者数は 1,369 人となっている。そのうち、101 人が専門看護師課程への入学者であり、修士課程入学者全体の約 7.0%を占め、前年度の 6.5%より増加している。また、専門看護師課程定員数 62 に対して志願者数は 126 人であり、約 2 倍の数で、専門看護師の希望者の増加傾向が続いている。博士後

期課程は定員数 379 に対して志願者 374 人、入学者 264 人と定員に満たない状況となっていた。

表 7.看護学専攻の入学者状況(4月入学生) (人)

		合計	男	女	
学部定員数:14,080人;校数=145		志願者数	61,062	6,949	54,113
		入学者数総計	12,542	1,280	11,262
修士課程	修士課程定員数:1,546人;校数=97	志願者数	1,806	223	1,583
		入学者数総計	1,369	154	1,215
	(内、専門看護師課程定員数:62人 校数=24)	志願者数	126	6	120
		入学者数総計	101	4	97
博士課程定員数:379人;校数=43		志願者数	374	41	333
		入学者数総計	264	27	237

### 3)卒業・修了状況(表 8)

学部卒業生は 9,465 人、修士論文課程修了生は 927 人で専門看護師課程の修了生は 106 人、博士課程修了生は 110 人であった。学部卒業生のうち、看護師免許取得・既修得人数は 8,552 人、保健師免許 8,366 人、助産師 655 人であった。また、専門看護師資格取得者は 95 人であった。

表 8.卒業生・修了生の数 (人)

		卒業・修了生数	卒業時取得・既取得免許			
			看護師	保健師	助産師	養護教員
学部卒業;校数=115	全体	9,465	8,552	8,366	655	290
	上記のうち編入生	880	621	740	80	20
修士課程修了:校数=92 (内、専門看護師課程開設:校数=50)	修士論文課程	927	567	195	96	19
	専門看護師課程	106	—	—	—	—
博士後期課程修了:校数=38		110	—	—	—	—
論文博士号取得:校数=38		22	—	—	—	—

### 4)編入学制度、社会人入学制度、科目等履修制度等の状況(表 9)

編入学制度においては、昨年と同様に短期大学からの編入学が減少傾向にあり看護専門学校からの編入学が増加傾向となっている。大学および大学院における社会人入学制度、科目等履修制度、研究生等の受け入れ校数は、ほぼ前年度と同じような数となっている。

### 5)卒業・修了時点の進路(表 10、表 11、表 12)

学部卒業時点の進路は、卒業生 9,576 人のうち 8,834 人(92.3%)が就職、473 人(5.0%)が進学であった。就職先としては 8,049 人が病院で就職者数全体の 91.1%を占めていた。一方、保健所・市町村・健診センター、企業への就職者数は 596 人で全体の 6.7%であった。また、進学した 473 人において、看護系大学院を 171 人(36.2%)、助産師コースを 172 人(36.4%)が選択していた。

修士課程においては 671 人が就職しており、467 人(69.6%)が病院や保健所など保健医療関連施設や企業を占め、教育・研究関係機関は 180 人(26.8%)であった。博士後期課程では 88 人の就職者のうち、76 人(86.4%)が教育・研究機関に就職をしていた。

表 9.科目等履修生制度・社会人入学制度等の受け入れ状況

制度の種類		制度あり (校)	志願者数 (人)	入学者数 (人)	
編入学制度	短大からの編入学	101	680	190	
	看護専門学校からの編入学	99	2449	637	
	看護専門学校以外からの編入学(学士編入)	11	204	53	
	その他の教育機関からの編入学	13	8	3	
社会人入学制度	学部への入学	80	700	181	
	大学院	修士または博士前期課程	77	616	537
		博士後期課程	29	125	93
科目等履修生制度	学部	116	65	65	
	大学院	84	156	158	
研究生・専攻生	学部	85	—	—	
	修士課程または博士前期課程	65	42	42	
	博士後期課程	36			

表 10.卒業・修了時点での就職・進学状況 (人)

	学部	修士課程	博士課程
就職	8,834	671	88
進学	473	56	11
未就労(進学を除く)	176	31	2
その他(不明含む)	93	88	10
合計	9,576	846	111

表 11.就職先内訳 (人)

	学部	修士課程	博士課程
病院	8,049	390	7
診療所	11	2	0
福祉関係施設	7	8	0
訪問看護ステーション	2	10	1
保健所・市町村・健診センター	563	53	1
企業	33	4	0
学校	66	13	1
大学・短大・研究機関等	6	137	76
専修・各種学校	2	30	1
その他	95	24	1
合計	8,834	671	88

表 12.進学先内訳 (人)

	学部	修士課程	博士課程
大学・看護系	171	45	0
大学・看護系以外	25	7	0
助産師コース	172	0	0
国内の他大学他学部	44	0	0
海外留学	6	1	1
その他	55	3	10
合計	473	56	11

### 3. 教員の状況

#### 1) 大学の教員数(表 13、表 14)

完成年次を迎えている大学の学部もしくは学科に所属する専任教員は2008年5月現在3,684人であった。看護教員数の1校平均は32.3人で、国立27.2人、公立36.4人、私立33.5人と公立が多かった。職位別では助教が959人(26.0%)で一校平均9.4名、教授888人(24.1%)7.8名、講師が741人(20.1%)6.9名、准教授671人(18.2%)5.9名の順に多かった。助手は、398(10.8%)で56校のみの配置であった。国立大学では教授と助教が占める割合が多く、私立大学は比較的講師の割合が多いのが特徴であった。

完成年次を迎えた大学の看護以外の専任教員は658人で、1校あたりの教員数は6.5人(国立5.9人、公立7.5人、私立6.2人)で公立での配置が多かった。職位別では、教授は101校と多いが、他の職種の配置は少なかった。

表 13.看護学専攻の専任教員数(看護教員) 2008年5月現在完成年次を迎え、回答を得た大学

	総数(n=115)		国立(n=41)		公立(n=37)		私立(n=37)	
	配置校数	教員数(%) 一校平均人数	配置校数	教員数(%) 一校平均人数	配置校数	教員数(%) 一校平均人数	配置校数	教員数(%) 一校平均人数
教授	114	888 (24.1) 7.8 人/校	40	310 (28.2) 7.8 人/校	37	297 (22.0) 8.0 人/校	37	281 (22.7) 7.6 人/校
准教授	113	671 (18.2) 5.9 人/校	40	176 (16.0) 4.4 人/校	36	249 (18.5) 6.9 人/校	37	246 (19.9) 6.6 人/校
講師	107	741 (20.1) 6.9 人/校	36	161 (14.7) 4.5 人/校	35	279 (20.7) 8.0 人/校	36	301 (24.3) 8.4 人/校
助教	102	959 (26.0) 9.4 人/校	39	398 (36.2) 10.2 人/校	34	332 (24.6) 9.8 人/校	29	229 (18.5) 7.9 人/校
助手	56	398 (10.8) 7.1 人/校	13	41 (3.7) 3.2 人/校	21	181 (13.4) 8.6 人/校	22	176 (14.2) 8.0 人/校
その他	12	27 (0.7) 2.3 人/校	7	12 (1.1) 1.7 人/校	4	10 (0.7) 2.5 人/校	1	5 (0.4) 5.0 人/校
合計		3684 (100.0) 32.3 人/校		1086 (100.0) 27.2 人/校		1348 (100.0) 36.4 人/校		1238 (100.0) 33.5 人/校

表 14.看護学専攻の専任教員数(看護教員以外) 2008年5月現在完成年次を迎え、回答を得た大学

	総数(n=115)		国立(n=41)		公立(n=37)		私立(n=37)	
	配置校数	教員数(%) 一校平均人数	配置校数	教員数(%) 一校平均人数	配置校数	教員数(%) 一校平均人数	配置校数	教員数(%) 一校平均人数
教授	101	422 (64.1) 4.2 人/校	34	142 (71.4) 4.2 人/校	35	151 (57.6) 4.3 人/校	32	129 (65.5) 4.0 人/校
准教授	58	142 (21.6) 2.4 人/校	14	31 (15.6) 2.2 人/校	22	64 (24.4) 2.9 人/校	22	47 (23.9) 2.1 人/校
講師	33	49 (7.4) 1.5 人/校	6	6 (3.0) 1.0 人/校	14	29 (11.1) 2.1 人/校	13	14 (7.1) 1.1 人/校
助教	14	35 (5.3) 2.5 人/校	4	17 (8.5) 4.3 人/校	7	15 (5.7) 2.1 人/校	3	3 (1.5) 1.0 人/校
助手	6	6 (0.9) 1.0 人/校	0	0 (0.0) 0.0 人/校	2	2 (0.8) 1.0 人/校	4	4 (2.0) 1.0 人/校
その他	3	4 (0.6) 1.3 人/校	2	3 (1.5) 1.5 人/校	1	1 (0.4) 1.0 人/校	0	0 (0.0) 0.0 人/校
合計		658 (100.0) 6.5 人/校		199 (100.0) 5.9 人/校		262 (100.0) 7.5 人/校		197 (100.0) 6.2 人/校



## 2) 教員の研究活動(表 15)

2008年度の文部科学省研究費補助金新規申請は2,272件で前年度より26件増加した。申請数が前年度より増加しているのは基盤研究(A)、若手研究、特定領域研究、と研究成果公開促進・学術図書であった。最も申請が多いのは基盤研究(C)の1,055件だが、前年度より33件減少した。

採択は、基盤(A)は25件で採択率86.2%と昨年度よりも28.5ポイント高くなった。基盤(B)は50.3%、基盤(C)は33.6%の採択率で昨年度よりも増加した。若手研究35.9%、萌芽研究14.8%は昨年度より低下した。看護系大学全体の採択率は、同年の科学研究費の採択率(2008年文部科学省研究助成金採択率:基盤(A)22.2%、基盤(B)22.2%、基盤(C)21.6%、若手研究4.8~27.7%、萌芽研究7.2%)よりもいずれも高いといえた。設置主体別では、国立大学は申請949件で32.8%の採択、公立は717件申請で採択33.9%、私立は申請606件で採択30.0%という結果でいずれも採択率全体は高くなっていた。

厚生科学研究費補助金は、新規申請は36件で昨年より減少し、採択率は91.7%と昨年度より高かった。財団等の研究助成申請については、申請数は減少していたが、採択は81.1%と増加した。

表 15 看護教員の研究活動の状況:新規申請および採択件数 上段件数 下段(校)

研究種類	新規申請				採択				
	申請数	国立	公立	私立	採択数	国立	公立	私立	
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(A)	29 (14校)	9 (5校)	13 (5校)	7 (4校)	25 (8校)	9 (4校)	13 (2校)	3 (2校)
	基盤研究(B)	187 (66校)	81 (28校)	62 (22校)	44 (16校)	94 (31校)	36 (12校)	29 (9校)	29 (10校)
	基盤研究(C)	1055 (125校)	426 (41校)	333 (33校)	296 (51校)	354 (95校)	156 (34校)	118 (31校)	80 (30校)
	萌芽的研究	465 (102校)	226 (37校)	123 (25校)	116 (40校)	69 (34校)	35 (16校)	19 (9校)	15 (9校)
	奨励研究	8 (4校)	0 (0校)	1 (1校)	7 (3校)	2 (2校)	0 (0校)	1 (1校)	1 (1校)
	若手研究	496 (110校)	197 (40校)	174 (30校)	125 (40校)	178 (77校)	71 (32校)	61 (22校)	46 (23校)
	特定領域研究	7 (5校)	5 (4校)	0 (0校)	2 (1校)	2 (0校)	0 (0校)	0 (0校)	2 (0校)
	研究成果公開促進費 ・学術図書	6 (5校)	0 (0校)	2 (2校)	4 (3校)	3 (3校)	0 (0校)	0 (0校)	3 (3校)
	その他	19 (13校)	5 (4校)	9 (5校)	5 (4校)	9 (7校)	4 (3校)	2 (2校)	3 (2校)
厚生科学研究費補助金	36 (20校)	8 (3校)	7 (5校)	21 (12校)	33 (8校)	16 (2校)	4 (1校)	13 (5校)	
財団等の研究助成研究	127 (45校)	58 (19校)	25 (6校)	44 (20校)	103 (43校)	47 (16校)	30 (11校)	26 (16校)	
企業等の教育研究奨励費	49 (15校)	34 (9校)	12 (4校)	3 (2校)	74 (16校)	60 (10校)	12 (4校)	2 (2校)	
企業等の受託研究費	38 (20校)	26 (11校)	7 (5校)	5 (4校)	39 (20校)	25 (10校)	5 (4校)	9 (6校)	
大学独自の助成による研究	584 (57校)	76 (23校)	263 (16校)	245 (18校)	493 (60校)	58 (23校)	235 (17校)	200 (20校)	
その他	49 (18校)	11 (6校)	13 (5校)	25 (7校)	32 (17校)	10 (6校)	10 (4校)	12 (7校)	

### 3)看護系大学の社会貢献

#### (1)公開講座の開催(表 16)

看護教員が企画した市民対象の公開講座については、89校(60.5%)が回答し、記載された開催回数の総数は181件で前年度815件より回答された数はかなり少なかった。参加人数も2007年度回答の33,446人よりも減少した。しかし、各大学の社会貢献として一般市民向けの公開講座開催が促進されている現状からみると、調査結果と現状は必ずしも合致していないことが推測される。同様に看護職向けの公開講座開催は37校(25.2%)で少なかったが、実際には多くの講座の広報があることから、今回の調査では公開講座の情報を集約しにくく、回答しなかった大学が多くあると推測された。

#### (2)看護教員の教育・研究への貢献(表 17・表 18)

看護系大学の教員が何らかの卒後研修に関与していると回答した大学は46校で昨年度よりも増加した。しかし、「実施していない」と回答した大学がほぼ半数あった。実施校の内容は「指導者として参加」「卒後研修の場の提供」が多かった。

教員の共同研究について回答されたのは半数以下であったが、933件と昨年よりも増加していた。最も多いのは、「病院との共同研究」で、次いで「教育研究機関」との連携であった。

講師派遣は7009件で、病院や教育研究機関は113校(76.8%)、職能団体112校(76.2%)行政104校(70.4%)など多くの大学が行っていた。

表 16 公開講座の実施

対象者	実施校数	公開講座数	参加者数
一般市民	89	181	27,002
看護職者	37	88	9,493
その他	19	33	3,337

表 17. 看護教員の卒後研修への参与

実施している	46	⇒
実施していない	71	
卒業生なし	30	

記載校数

実施の内容	記載校数
教員が研修の指導者として参加	25
卒後研修の場の提供	23
研修プログラムの開発協力	0
あてはまるものはない	8

表 18.看護教員の共同研究・講師派遣

件 ( )は記載校数

	臨床現場		職能団体	行政	教育研究機関	企業	その他
	病院	その他					
共同研究	251 (41校)	50 (20校)	84 (20校)	111 (25校)	214 (47校)	59 (25校)	164 (13校)
講師派遣	1379 (113校)	266 (66校)	1952 (112校)	1066 (104校)	1644 (113校)	312 (53校)	390 (48校)
その他	304 (56校)	77 (27校)	1055 (100校)	895 (103校)	406 (69校)	62 (27校)	166 (31校)

#### 4) ファカルティディベロップメント(FD)の実施状況(表 19)

ファカルティディベロップメントの実施状況では、142 校(97%)が FD に関する委員会を設置していた。活動内容では、ファカルティの教育力の向上に関する研修会(138 校)、カリキュラム評価・開発に関する検討会(117 校)、研究力向上に関する研修会(106 校)などが多かった。

表 19. ファカルティディベロップメント(FD)の実施状況

	実施校数
FD に関する委員会を組織	142
ファカルティの教育力の向上に関する研修会	138
ファカルティの研究力の向上に関する研修会	106
新任教員を対象とした研修会	77
カリキュラム評価・開発に関する検討会	117
大学運営・組織開発についての研修会	61
組織として教員個人の能力評価を実施	87

#### 4. 国際交流

##### 1) 国際交流協定校(図1)

回答の得られた 147 校のうち、82 校(55.8%)が、いずれかの学校と協定を結んでいた。国際交流協定校・施設(姉妹校を含む)の状況は、アメリカ合衆国と提携しているのが 75 校、中国 70 校、韓国 53 校、タイ 24 校と続いていた。

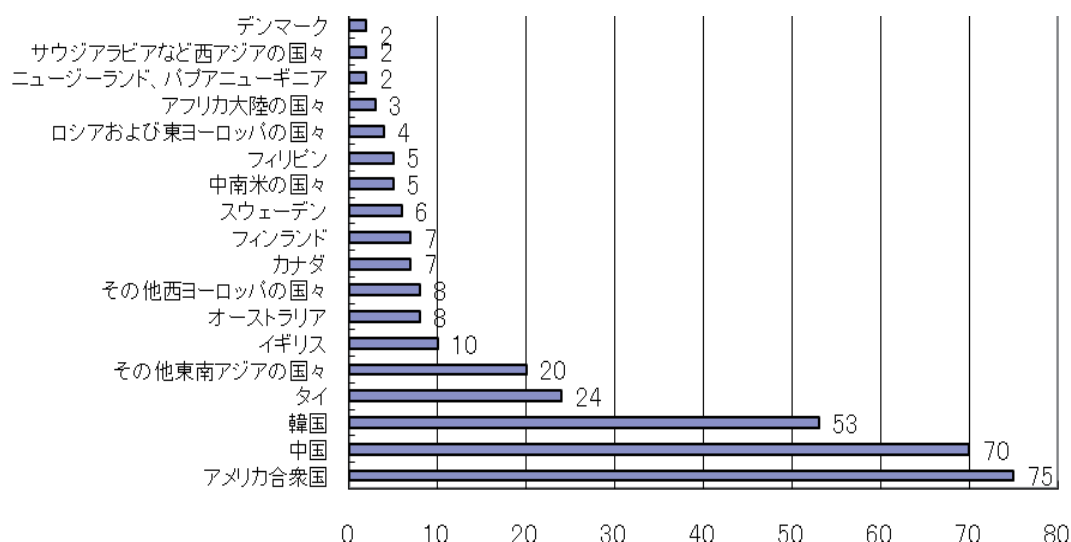


図 1. 国際交流協定校・施設の状況 (人)

##### 2) 留学生(図 2、図 3)

在学生の留学は、アメリカ合衆国が 71 人と最も多く、カナダ 19 人、フィリピン 16 人と続いていた。一方、留学生の受け入れは、中国が 43 人と最も多く、次いで韓国が 39 人であった。

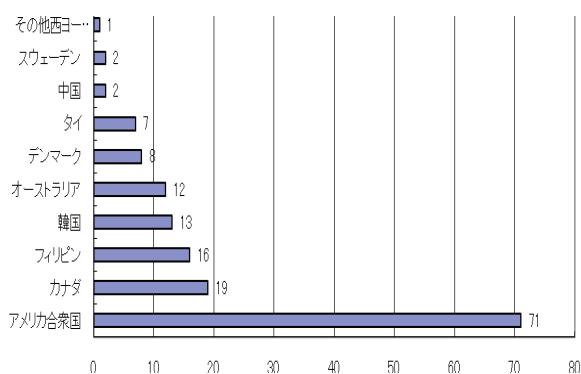


図 2. 在学中に留学している学生数と留学先 (人)

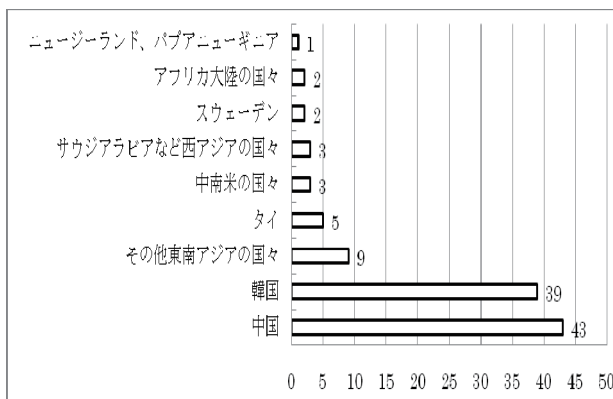


図 3. 受け入れている留学生数と受け入れ国 (人)

### 3) 教員の海外派遣(表 20)

教員の海外派遣については、6 カ月未満の短期派遣が多く、延べ 623 件で、教授が 323 件 (51.8%) を占めていた。一方 6 カ月以上の長期派遣は、全体で 3 件と少なかった。設置主体別にみると、短期派遣は、国立 43%、公立 29%、私立 28%であった。長期派遣については、国立大学はみられず、私立が多くを占めていた。

表 20. 看護教員の海外派遣状況

( ) 記載校数

	短期派遣(6ヶ月未満)				長期派遣 (6ヶ月以上)
	総数	国立	公立	私立	
教授	323 (63)	147 (88)	92 (62)	84 (51)	0
准教授	108 (42)	35 (29)	40 (30)	33 (20)	1
講師	73 (37)	30 (23)	16 (14)	27 (21)	2
助教	89 (37)	46 (35)	26 (18)	17 (10)	0
助手	22 (10)	6 ( 5)	4 ( 2)	12 ( 8)	0
その他	8 ( 4)	4 ( 4)	3 ( 3)	1 ( 1)	0
合計	623	268	181	174	3

### 4) 海外からの受け入れ(表 21)

海外からの受け入れ状況については延べ 133 件あり、教授が 39 件 (26.3%) であり、次いで准教授が 11 件 (8.3%) であったが、その他が最も多く 78 件であった。

表 21 海外からの受け入れ状況(件)

教授	39
准教授	11
講師	5
助教	0
助手	0
その他	78

## 5. 看護関係の附属研究機関（表 22、図 4、表 23）

看護系の附属研究機関は、回答した 147 校中 30 校（20.4%）にあった。組織の位置づけは、大学という回答が 28 校、大学以外という回答が 2 校であった。附属研究機関の組織については、得られた回答が少ないという限界はあるが、全体で教員が 804 人（記入校平均 28.7 人）、研究員が 49 人（記入校平均 16.3 人）、職員が 111 人（記入校平均 16.2 人）、その他が 8 人（記入校平均 2.7 人）であった。どの職位においても兼任が多く、教員では、675 人で教員の 84.0%を占めていた。同様に研究員は 47 人（95.1%）、職員 94 人（84.7%）であった。

これらの施設の財政基盤は、24 校（80%）が大学の予算でまかなわれ、国・自治体、民間の助成を受けているところもそれぞれ 2 校ずつあった。

附属研究機関の具体的な活動は、看護職のための継続教育、市民向けの生涯学習や健康教育、看護実践の提供や共同研究があった。

表 22. 附属研究機関の組織の人数 上段: 所属人数  
下段: 平均人数/記入校数

	全体	専任	兼任
教員	804 28.7 人/28 校	129 10.8/12	675 35.5/19
研究員	49 16.3/ 3	2 2.0/ 1	47 23.5/ 2
職員	111 16.2/18	17 2.4/ 7	94 7.2/13
その他	8 2.7/ 3	6 2.0/ 3	2 2.0/ 1

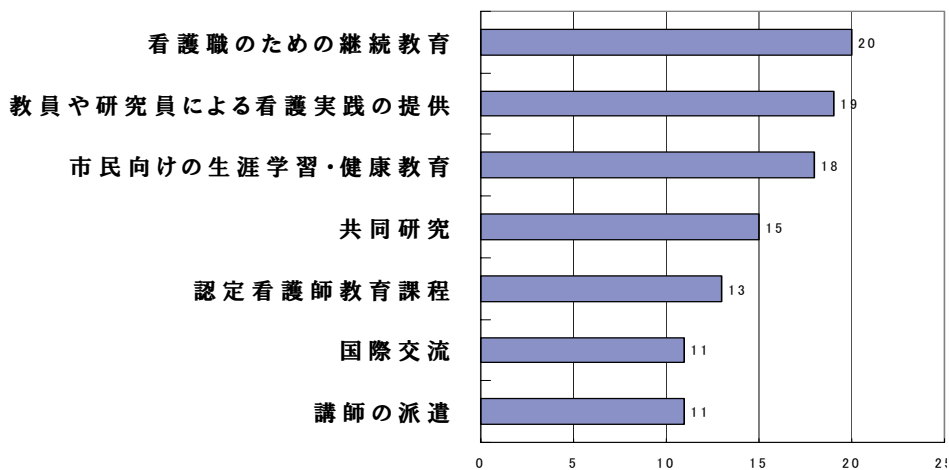


図4. 附属研究機関の活動内容(複数回答) (校)

表 23. 附属研究機関の財政基盤 (校)

大学の予算内	24
国・自治体の助成	2
民間の助成	2
その他	2

## 6. 図書館（表 24、図 5、表 25）

図書館については、蔵書・雑誌数、電子資料や文献データベースの予算、学生の利用回数の観点から回答を得た。

看護に分類された蔵書が 1,442,409 冊（回答した 146 校の平均 9879.5 冊）で、雑誌が 37,455 冊（回答した 142 校の平均 263.8 冊）であった。

学生・教職員が使用する電子資料や文献データベースの年間予算は、合計で 5,389,290 千円であり、記入した 138 校の平均で見ると、39052.8 千円であった。電子資料や文献データベースの年間予算の分布をみると、50 万以上 100 万未満が 12 校、100 万以上 150 万未満が 11 校、250 万以上 300 万未満が 10 校あった。また、一億円以上 2 億円未満も 10 校あった。

表 24. 看護に分類された蔵書数・雑誌数(冊)

	冊数	記入校	記入校平均
蔵書	1,442,409	146	9879.5
雑誌	37,455	142	263.8

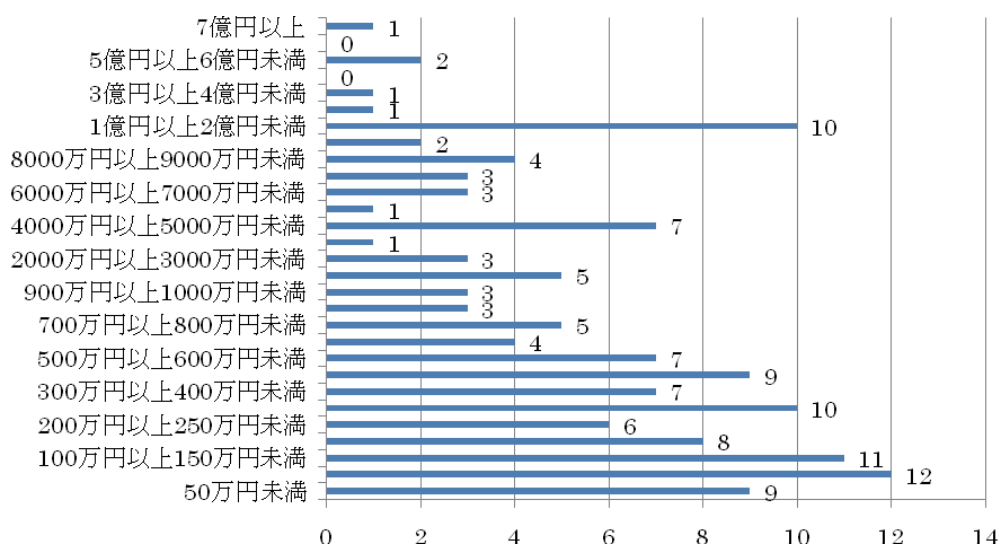


図 5 学生・教職員が使用する電子資料や文献データベースの年間予算 (校)

学生への図書館利用教育は、オリエンテーションが延べ 333 回（記入した 144 校の平均は 2.3 回）、図書館主催の講座は延べ 534 回（記入した 84 校の平均 6.4 回）であった。

表 25. 看護学生を対象に行う図書館利用教育の実施状況(回)

	回数	記入校数	記入校平均
オリエンテーション	333	144	2.3
図書館主催の講座	534	84	6.4

## 7. リスクマネジメント（図6、図7）

問題発生状況があると回答した大学は全体で110校あり、そのうち訴訟・補償に発展した問題があったのは16校であった。訴訟・補償に至らない問題では、不審者が42校で最も多く、次いでハラスメント、個人情報の漏洩であった。訴訟・補償に発展した問題は、ハラスメントが最も多く、次いで不審者、入試判定となっていた。

ハラスメントの対策を講じている大学は123校、不審者対策が114校、個人情報の漏洩が110校、入試判定対策が88校で講じられていた。

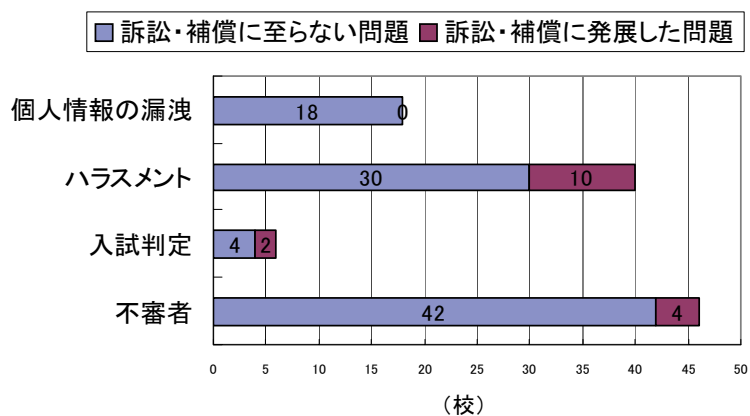


図6. リスクマネジメント問題発生状況

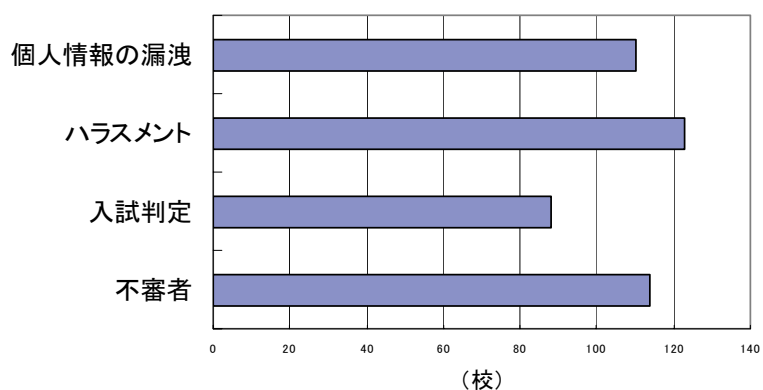


図7 リスクマネジメント対策状況

<2004 年度>

秋田大学医学部保健学科看護学専攻

愛媛大学医学部看護学科

大阪大学大学院医学系研究科

保健学専攻統合保健看護科学分野

鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻

九州大学医学部保健学科看護学専攻

群馬大学医学部保健学科看護学専攻

神戸大学医学部保健学科看護学専攻

滋賀医科大学医学部看護学科

信州大学医学部保健学科看護学専攻

筑波大学医学専門学群

看護・医療科学類看護学主専攻

東北大学医学部保健学科看護学専攻

徳島大学医学部保健学科看護学専攻

富山医科薬科大学医学部看護学科

名古屋大学医学部保健学科看護学専攻

浜松医科大学医学部看護学科

広島大学大学院保健学研究科

保健学専攻看護開発科学講座

三重大学医学部看護学科

山形大学医学部看護学科

山梨大学大学院医学工学総合研究部看護学専攻

愛知県立看護大学看護学部看護学科

茨城県立医療大学保健医療学部看護学科

愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科

大阪市立大学医学部看護学科

沖縄県立看護大学看護学部看護学科

神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科

京都府立医科大学医学部看護学科

県立広島大学保健福祉学部看護学科

神戸市看護大学看護学部看護学科

札幌医科大学保健医療学部看護学科

静岡県立大学看護学部看護学科

名古屋市立大学看護学部看護学科

旭川医科大学医学部看護学科

大分大学医学部看護学科

岡山大学医学部保健学科看護学専攻

香川大学医学部看護学科

岐阜大学医学部看護学科

熊本大学医学部保健学科看護学専攻

高知大学医学部看護学科

佐賀大学医学部看護学科

島根大学医学部看護学科

千葉大学看護学部看護学科

東京大学医学部健康科学・看護学科

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

総合保健看護学専攻

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻

長崎大学医学部保健学科看護学専攻

新潟大学医学部保健学科看護学専攻

弘前大学医学部保健学科看護学専攻

福井大学医学部看護学科

北海道大学医学部保健学科看護学専攻

宮崎大学医学部看護学科

山口大学医学部保健学科看護学専攻

琉球大学医学部保健学科

石川県立看護大学看護学部看護学科

岩手県立大学看護学部看護学科

大分県立看護科学大学看護学部看護学科

岡山県立大学保健福祉学部看護学科

香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

岐阜県立看護大学看護学部看護学科

県立長崎シーボルト大学看護栄養学部看護学科

高知女子大学看護学部看護学科

埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科

滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科

首都大学東京健康福祉学部看護学科

奈良県立医科大学医学部看護学科



新潟県立看護大学看護学部看護学科  
福井県立大学看護福祉学部看護学科  
福島県立医科大学看護学部看護学科  
宮城大学看護学部看護学科  
山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科  
山梨県立看護大学看護学部看護学科  
愛知医科大学看護学部看護学科  
茨城キリスト教大学看護学部看護学科  
川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科  
吉備国際大学保健科学部看護学科  
杏林大学保健学部看護学科  
久留米大学医学部看護学科  
慶応義塾大学看護医療学部看護学科  
産業医科大学産業保健学部看護学科  
順天堂大学医療看護学部看護学科  
昭和大学保健医療学部看護学科  
聖母大学看護学部看護学科  
聖路加看護大学看護学部看護学科  
天使大学看護栄養学部看護学科  
東京慈恵医科大学医学部看護学科  
東邦大学医学部看護学科  
日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科  
藤田保健衛生大学衛生学部衛生看護学科

兵庫県立大学看護学部看護学科  
福岡県立大学看護学部看護学科  
三重県立看護大学看護学部看護学科  
宮崎県立看護大学看護学部看護学科  
山口県立大学看護学部看護学科  
和歌山県立医科大学保健看護学部保健看護学科  
藍野大学医療保健学部看護学科  
鹿児島純心女子大学看護栄養学部看護学科  
北里大学看護学部看護学科  
九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科  
熊本保健科学大学保健科学部看護学科  
呉大学看護学部看護学科  
国際医療福祉大学保健学部看護学科  
自治医科大学看護学部看護学科  
上武大学看護学部看護学科  
西南女学院大学保健福祉学部看護学科  
聖隷クリストファー大学看護学部看護学科  
帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科  
東海大学健康科学部看護学科  
東京女子医科大学看護学部看護学科  
日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科  
広島国際大学看護学部看護学科  
北海道医療大学看護福祉学部看護学科

<2005 年度>

秋田大学医学部保健学科看護学専攻  
愛媛大学医学部看護学科  
大阪大学大学院医学系研究科  
保健学専攻統合保健看護科学分野  
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻  
岐阜大学医学部看護学科  
京都大学医学部保健学科看護学専攻  
群馬大学医学部保健学科看護学専攻  
神戸大学医学部保健学科看護学専攻

旭川医科大学医学部看護学科  
大分大学医学部看護学科  
岡山大学医学部保健学科看護学専攻  
香川大学医学部看護学科  
金沢大学医学部保健学科看護学専攻  
九州大学医学部保健学科看護学専攻  
熊本大学医学部保健学科看護学専攻  
高知大学医学部看護学科  
佐賀大学医学部看護学科

滋賀医科大学医学部看護学科  
 信州大学医学部保健学科看護学専攻  
 筑波大学医学専門学群  
     看護・医療科学類看護学主専攻  
 東北大学医学部保健学科看護学専攻  
 徳島大学医学部保健学科看護学専攻  
 富山医科薬科大学医学部看護学科  
 名古屋大学医学部保健学科看護学専攻  
 浜松医科大学医学部看護学科  
 広島大学大学院保健学研究科  
     保健学専攻看護開発科学講座  
 三重大学医学部看護学科  
 山形大学医学部看護学科  
 山梨大学大学院医学工学総合研究部看護学専攻  
 愛知県立看護大学看護学部看護学科  
 石川県立看護大学看護学部看護学科  
 愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科  
 大阪市立大学医学部看護学科  
 沖縄県立看護大学看護学部看護学科  
 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科  
 京都府立医科大学医学部看護学科  
 県立長崎シーボルト大学看護栄養学部看護学科  
 高知女子大学看護学部看護学科  
 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科  
 滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科  
 首都大学東京健康福祉学部看護学科  
 名古屋市立大学看護学部看護学科  
 新潟県立看護大学看護学部看護学科  
 福井県立大学看護福祉学部看護学科  
 三重県立看護大学看護学部看護学科  
 宮崎県立看護大学看護学部看護学科  
 山梨県立看護大学看護学部看護学科  
 愛知医科大学看護学部看護学科  
 茨城キリスト教大学看護学部看護学科  
 川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科  
 島根大学医学部看護学科  
 千葉大学看護学部看護学科  
 東京大学医学部健康科学・看護学科  
 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科  
     総合保健看護学専攻  
 鳥取大学医学部保健学科看護学専攻  
 長崎大学医学部保健学科看護学専攻  
 新潟大学医学部保健学科看護学専攻  
 弘前大学医学部保健学科看護学専攻  
 福井大学医学部看護学科  
 北海道大学医学部保健学科看護学専攻  
 宮崎大学医学部看護学科  
 山口大学医学部保健学科看護学専攻  
 琉球大学医学部保健学科  
 青森県立健康大学健康科学部看護学科  
 岩手県立大学看護学部看護学科  
 大分県立看護科学大学看護学部看護学科  
 大阪府立大学看護学部看護学科  
 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科  
 岐阜県立看護大学看護学部看護学科  
 県立広島大学保健福祉学部看護学科  
 神戸市看護大学看護学部看護学科  
 札幌医科大学保健医療学部看護学科  
 静岡県立大学看護学部看護学科  
 長野県看護大学看護学部看護学科  
 奈良県立医科大学医学部看護学科  
 兵庫県立大学看護学部看護学科  
 福島県立医科大学看護学部看護学科  
 宮城大学看護学部看護学科  
 山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科  
 和歌山県立医科大学保健看護学部保健看護学科  
 藍野大学医療保健学部看護学科  
 鹿児島純心女子大学看護栄養学部看護学科  
 吉備国際大学保健科学部看護学科

九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科  
杏林大学保健学部看護学科  
久留米大学医学部看護学科  
慶應義塾大学看護医療学部看護学科  
自治医科大学看護学部看護学科  
上武大学看護学部看護学科  
西南女学院大学保健福祉学部看護学科  
聖隷クリストファー大学看護学部看護学科  
帝京大学医療技術学部看護学科  
東海大学健康科学部看護学科

京都橘大学看護学部看護学科  
熊本保健科学大学保健科学部看護学科  
群馬パース大学保健科学部看護学科  
産業医科大学産業保健学部看護学科  
順天堂大学医療看護学部看護学科  
昭和大学保健医療学部看護学科  
聖母大学看護学部看護学科  
聖路加看護大学看護学部看護学科  
天使大学看護栄養学部看護学科  
東京医療保健大学医療保健学部看護学科

〈2006年度〉

秋田大学医学部保健学科看護学専攻  
愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻  
大阪大学大学院医学系研究科  
保健学専攻統合保健看護科学分野  
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻  
岐阜大学医学部看護学科  
京都大学医学部保健学科看護学専攻  
群馬大学医学部保健学科看護学専攻  
神戸大学医学部保健学科看護学専攻  
滋賀医科大学医学部看護学科  
信州大学医学部保健学科看護学専攻  
筑波大学医学群看護学類  
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科  
総合保健看護学専攻  
鳥取大学医学部保健学科看護学専攻  
長崎大学医学部保健学科看護学専攻  
新潟大学医学部保健学科看護学専攻  
弘前大学医学部保健学科看護学専攻  
福井大学医学部看護学科  
北海道大学医学部保健学科看護学専攻  
宮崎大学医学部看護学科  
山口大学大学院医学系研究科保健学系学域  
琉球大学医学部保健学科  
愛知県立看護大学看護学部看護学科

旭川医科大学医学部看護学科  
大分大学医学部看護学科  
岡山大学医学部保健学科看護学専攻  
香川大学医学部看護学科  
金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻看護科学領域  
九州大学医学部保健学科看護学専攻  
熊本大学医学部保健学科看護学専攻  
高知大学医学部看護学科  
佐賀大学医学部看護学科  
島根大学医学部看護学科  
千葉大学看護学部看護学科  
東京大学医学部健康科学・看護学科  
東北大学医学部保健学科看護学専攻  
徳島大学医学部保健学科看護学専攻  
富山大学医学部看護学科  
名古屋大学医学部保健学科看護学専攻  
浜松医科大学医学部看護学科  
広島大学大学院保健学研究科  
保健学専攻看護開発科学講座  
三重大学医学部看護学科  
山形大学医学部看護学科  
山梨大学大学院医学工学総合研究部看護学専攻  
国立看護大学校看護学部看護学科  
青森県立保健大学健康科学部看護学科

石川県立看護大学看護学部看護学科  
 岩手県立大学看護学部看護学科  
 大分県立看護科学大学看護学部看護学科  
 大阪府立大学看護学部看護学科  
 沖縄県立看護大学看護学部看護学科  
 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科  
 京都府立医科大学医学部看護学科  
 県立長崎シーボルト大学看護栄養学部看護学科  
 高知女子大学看護学部看護学科  
 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科  
 札幌市立大学看護学部看護学科  
 首都大学東京健康福祉学部看護学科  
 名古屋市立大学看護学部看護学科  
 新潟県立看護大学看護学部看護学科  
 福井県立大学看護福祉学部看護学科  
 福島県立医科大学看護学部看護学科  
 宮城大学看護学部看護学科  
 山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科  
 山梨県立大学看護学部看護学科  
 和歌山県立医科大学保健看護学部保健看護学科  
 愛知医科大学看護学部看護学科  
 鹿児島純心女子大学看護栄養学部看護学科  
 関西福祉大学看護学部看護学科  
 吉備国際大学保健科学部看護学科  
 九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科  
 杏林大学保健学部看護学科  
 久留米大学医学部看護学科  
 群馬パース大学保健科学部看護学科  
 国際医療福祉大学保健学部看護学科  
 埼玉医科大学保健医療学部看護学科  
 自治医科大学看護学部看護学科  
 順天堂大学医療看護学部看護学科  
 昭和大学保健医療学部看護学科  
 聖母大学看護学部看護学科  
 聖隷クリストファー大学看護学部看護学科  
 高崎健康福祉大学看護学部看護学科  
 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科  
 愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科  
 大阪市立大学医学部看護学科  
 岡山県立大学保健福祉学部看護学科  
 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科  
 岐阜県立看護大学看護学部看護学科  
 群馬県立県民健康科学大学看護学部看護学科  
 県立広島大学保健福祉学部看護学科  
 神戸市看護大学看護学部看護学科  
 札幌医科大学保健医療学部看護学科  
 滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科  
 長野県看護大学看護学部看護学科  
 奈良県立医科大学医学部看護学科  
 兵庫県立大学看護学部看護学科  
 福岡県立大学看護学部看護学科  
 三重県立看護大学看護学部看護学科  
 宮崎県立看護大学看護学部看護学科  
 山口県立大学看護学部看護学科  
 横浜市立大学医学部看護学科  
 名寄市立大学保健福祉学部看護学科  
 茨城キリスト教大学看護学部看護学科  
 川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科  
 北里大学看護学部看護学科  
 岐阜医療科学大学保健科学部看護学科  
 京都橘大学看護学部看護学科  
 熊本保健科学大学保健科学部看護学科  
 呉大学看護学部看護学科  
 慶應義塾大学看護医療学部看護学科  
 国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科  
 産業医科大学産業保健学部看護学科  
 順心会看護医療大学看護学部看護学科  
 上武大学看護学部看護学科  
 西南女学院大学保健福祉学部看護学科  
 聖マリア学院大学看護学部看護学科  
 聖路加看護大学看護学部看護学科  
 中部大学生命健康科学部保健看護学科

帝京大学医療技術学部看護学科  
東海大学健康科学部看護学科  
東京女子医科大学看護学部看護学科  
東北福祉大学健康科学部保健看護学科  
新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科  
日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科  
兵庫大学健康科学部看護学科  
広島国際大学看護学部看護学科  
北海道医療大学看護福祉学部看護学科  
明治鍼灸大学看護学部看護学科

天使大学看護栄養学部看護学科  
東京医療保健大学医療保健学部看護学科  
東邦大学医学部看護学科  
新潟医療福祉大学医療技術学部看護学科  
日本赤十字看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科  
弘前学院大学看護学部看護学科  
藤田保健衛生大学衛生学部衛生看護学科  
武蔵野大学看護学部看護学科  
目白大学看護学部看護学科

〈2007年度〉

秋田大学医学部保健学科看護学専攻  
愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻  
大阪大学大学院医学系研究科  
保健学専攻統合保健看護科学分野  
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻  
九州大学医学部保健学科看護学専攻  
熊本大学医学部保健学科看護学専攻  
高知大学医学部看護学科  
佐賀大学医学部看護学科  
信州大学医学部保健学科看護学専攻  
筑波大学医学群看護学類  
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科  
総合保健看護学専攻  
鳥取大学医学部保健学科看護学専攻  
長崎大学医学部保健学科看護学専攻  
新潟大学医学部保健学科看護学専攻  
弘前大学医学部保健学科看護学専攻  
北海道大学医学部保健学科看護学専攻  
宮崎大学医学部看護学科  
山口大学大学院医学系研究科保健学系学域  
琉球大学医学部保健学科  
愛知県立看護大学看護学部看護学科  
石川県立看護大学看護学部看護学科

旭川医科大学医学部看護学科  
大分大学医学部看護学科  
岡山大学医学部保健学科看護学専攻  
香川大学医学部看護学科  
金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻看護科学領域  
京都大学医学部保健学科看護学専攻  
群馬大学医学部保健学科看護学専攻  
神戸大学医学部保健学科看護学専攻  
島根大学医学部看護学科  
千葉大学看護学部看護学科  
東京大学医学部健康科学・看護学科  
東北大学医学部保健学科看護学専攻  
徳島大学医学部保健学科看護学専攻  
富山大学医学部看護学科  
名古屋大学医学部保健学科看護学専攻  
浜松医科大学医学部看護学科  
福井大学医学部看護学科  
三重大学医学部看護学科  
山形大学医学部看護学科  
山梨大学大学院医学工学総合研究部看護学専攻  
国立看護大学校看護学部看護学科  
青森県立保健大学健康科学部看護学科  
茨城県立医療大学保健医療学部看護学科

岩手県立大学看護学部看護学科  
 大分県立看護科学大学看護学部看護学科  
 大阪府立大学看護学部看護学科  
 沖縄県立看護大学看護学部看護学科  
 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科  
 京都府立医科大学医学部看護学科  
 県立広島大学保健福祉学部看護学科  
 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科  
 札幌市立大学看護学部看護学科  
 長野県看護大学看護学部看護学科  
 奈良県立医科大学医学部看護学科  
 兵庫県立大学看護学部看護学科  
 福岡県立大学看護学部看護学科  
 三重県立看護大学看護学部看護学科  
 宮崎県立看護大学看護学部看護学科  
 山口県立大学看護学部看護学科  
 和歌山県立医科大学保健看護学部保健看護学科  
 愛知医科大学看護学部看護学科  
 茨城キリスト教大学看護学部看護学科  
 川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科  
 北里大学看護学部看護学科  
 九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科  
 杏林大学保健学部看護学科  
 久留米大学医学部看護学科  
 群馬パース大学保健科学部看護学科  
 国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科  
 産業医科大学産業保健学部看護学科  
 関西看護医療大学看護学部看護学科  
 上武大学看護学部看護学科  
 西南女学院大学保健福祉学部看護学科  
 聖マリア学院大学看護学部看護学科  
 聖路加看護大学看護学部看護学科  
 高崎健康福祉大学看護学部看護学科  
 帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科  
 東海大学健康科学部看護学科  
 東京慈恵会医科大学医学部看護学科  
 愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科  
 大阪市立大学医学部看護学科  
 岡山県立大学保健福祉学部看護学科  
 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科  
 岐阜県立看護大学看護学部看護学科  
 長崎県立大学看護栄養学部看護学科  
 高知女子大学看護学部看護学科  
 札幌医科大学保健医療学部看護学科  
 首都大学東京健康福祉学部看護学科  
 名古屋市立大学看護学部看護学科  
 新潟県立看護大学看護学部看護学科  
 福井県立大学看護福祉学部看護学科  
 福島県立医科大学看護学部看護学科  
 宮城大学看護学部看護学科  
 山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科  
 横浜市立大学医学部看護学科  
 名寄市立大学保健福祉学部看護学科  
 藍野大学医療保健学部看護学科  
 鹿児島純心女子大学看護栄養学部看護学科  
 関西福祉大学看護学部看護学科  
 吉備国際大学保健科学部看護学科  
 京都橘大学看護学部看護学科  
 熊本保健科学大学保健科学部看護学科  
 呉大学看護学部看護学科  
 国際医療福祉大学保健学部看護学科  
 埼玉医科大学保健医療学部看護学科  
 自治医科大学看護学部看護学科  
 順天堂大学医療看護学部看護学科  
 昭和大学保健医療学部看護学科  
 聖母大学看護学部看護学科  
 聖隷クリストファー大学看護学部看護学科  
 園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科  
 中部大学生命健康科学部保健看護学科  
 天使大学看護栄養学部看護学科  
 東京医療保健大学医療保健学部看護学科  
 東京女子医科大学看護学部看護学科

東邦大学医学部看護学科  
新潟医療福祉大学医療技術学部看護学科  
日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科  
兵庫大学健康科学部看護学科  
広島国際大学看護学部看護学科  
北海道医療大学看護福祉学部看護学科  
明治国際医療大学看護学部看護学科  
四日市看護医療大学看護学部看護学科  
近大姫路大学看護学部看護学科  
獨協医科大学看護学部看護学科  
金沢医科大学看護学部看護学科  
福山平成大学看護学部看護学科  
宇部フロンティア大学 人間健康学部看護学科  
秋田看護福祉大学 看護福祉学部看護学科

東北福祉大学健康科学部保健看護学科  
日本赤十字看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科  
弘前学院大学看護学部看護学科  
藤田保健衛生大学衛生学部衛生看護学科  
武蔵野大学看護学部看護学科  
目白大学看護学部看護学科  
兵庫医療大学看護学部看護学科  
つくば国際大学医療保健学部看護学科  
淑徳大学看護学部看護学科  
甲南女子大学  
看護リハビリテーション学部看護学科  
福岡大学 医学部看護学科

〈2008年度〉

秋田大学医学部保健学科看護学専攻  
愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻  
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻  
統合保健看護科学分野  
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻  
岐阜大学医学部看護学科  
九州大学医学部保健学科看護学専攻  
群馬大学医学部保健学科看護学専攻  
神戸大学医学部保健学科看護学専攻  
滋賀医科大学医学部看護学科  
信州大学医学部保健学科看護学専攻  
筑波大学医学専門学群看護・医療科学類看護学主専攻  
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科  
総合保健看護学専攻  
富山大学医学部看護学科  
名古屋大学医学部保健学科看護学専攻  
浜松医科大学医学部看護学科  
広島大学大学院保健学研究科保健学専攻看護開発科学講座  
北海道大学医学部保健学科看護学専攻

旭川医科大学医学部看護学科  
大分大学医学部看護学科  
岡山大学医学部保健学科看護学専攻  
香川大学医学部看護学科  
金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻  
看護科学領域  
熊本大学医学部保健学科看護学専攻  
高知大学医学部看護学科  
佐賀大学医学部看護学科  
島根大学医学部看護学科  
千葉大学看護学部看護学科  
東京大学医学部健康科学・看護学科  
徳島大学医学部保健学科看護学専攻  
鳥取大学医学部保健学科看護学専攻  
長崎大学医学部保健学科看護学専攻  
新潟大学医学部保健学科看護学専攻  
弘前大学医学部保健学科看護学専攻  
福井大学医学部看護学科  
三重大学医学部看護学科

宮崎大学医学部看護学科	山形大学医学部看護学科
山口大学大学院医学系研究科保健学系学域	山梨大学大学院医学工学総合研究部看護学専攻
琉球大学医学部保健学科	愛知県立大学看護学部看護学科
青森県立保健大学健康科学部看護学科	石川県立看護大学看護学部看護学科
茨城県立医療大学保健医療学部看護学科	岩手県立大学看護学部看護学科
愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科	大分県立看護科学大学看護学部看護学科
大阪市立大学医学部看護学科	大阪府立大学看護学部看護学科
岡山県立大学保健福祉学部看護学科	沖縄県立看護大学看護学部看護学科
香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科
岐阜県立看護大学看護学部看護学科	京都府立医科大学医学部看護学科
長崎県立大学看護栄養学部看護学科	高知女子大学看護学部看護学科
神戸市看護大学看護学部看護学科	埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科
札幌医科大学保健医療学部看護学科	札幌市立大学看護学部看護学科
滋賀県立大学人間看護学部人間看護学科	静岡県立大学看護学部看護学科
首都大学東京健康福祉学部看護学科	長野県看護大学看護学部看護学科
名古屋市立大学看護学部看護学科	奈良県立医科大学医学部看護学科
新潟県立看護大学看護学部看護学科	兵庫県立大学看護学部看護学科
福井県立大学看護福祉学部看護学科	福岡県立大学看護学部看護学科
福島県立医科大学看護学部看護学科	三重県立看護大学看護学部看護学科
宮城大学看護学部看護学科	宮崎県立看護大学看護学部看護学科
山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科	山口県立大学看護学部看護学科
横浜市立大学医学部看護学科	和歌山県立医科大学保健看護学部保健看護学科
名寄市立大学保健福祉学部看護学科	千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科
愛知医科大学看護学部看護学科	藍野大学医療保健学部看護学科
茨城キリスト教大学看護学部看護学科	川崎医療福祉大学医療福祉学部保健看護学科
関西福祉大学看護学部看護学科	北里大学看護学部看護学科
吉備国際大学保健科学部看護学科	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科
九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科	京都橘大学看護学部看護学科
杏林大学保健学部看護学科	熊本保健科学大学保健科学部看護学科
久留米大学医学部看護学科	広島文化学園大学看護学部看護学科
群馬パース大学保健科学部看護学科	慶應義塾大学看護医療学部看護学科
国際医療福祉大学保健学部看護学科	国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科
自治医科大学看護学部看護学科	順心会看護医療大学看護学部看護学科
順天堂大学医療看護学部看護学科	上武大学看護学部看護学科
西南女学院大学保健福祉学部看護学科	聖マリア学院大学看護学部看護学科
聖隷クリストファー大学看護学部看護学科	聖路加看護大学看護学部看護学科



高崎健康福祉大学看護学部看護学科  
帝京大学医療技術学部看護学科  
天使大学看護栄養学部看護学科  
東京医療保健大学医療保健学部看護学科  
東京女子医科大学看護学部看護学科  
日本赤十字看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科  
弘前学院大学看護学部看護学科  
北海道医療大学看護福祉学部看護学科  
明治国際医療大学看護学部看護学科  
四日市看護医療大学  
近大姫路大学看護学部看護学科  
獨協医科大学看護学部看護学科  
金沢医科大学看護学部看護学科  
宇部フロンティア大学人間健康学部看護学科  
福岡大学医学部看護学科  
千里金蘭大学看護学部看護学科  
徳島文理大学保健福祉学部看護学科  
佐久大学看護学部看護学科  
活水女子大学看護学部看護学科  
国際医療福祉大学福岡看護学部看護学科  
四国大学看護学部看護学科  
東京有明医療大学看護学部看護学科  
豊橋創造大学保健医療学部看護学科  
弘前医療福祉大学保健学部看護学科  
国立看護大学校看護学部看護学科

中部大学生命健康科学部保健看護学科  
帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科  
東海大学健康科学部看護学科  
東京慈恵会医科大学医学部看護学科  
東邦大学医学部看護学科  
日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科  
日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科  
兵庫大学健康科学部看護学科  
藤田保健衛生大学医療科学部看護学科  
武蔵野大学看護学部看護学科  
秋田看護福祉大学看護福祉学部看護学科  
兵庫医療大学看護学部看護学科  
つくば国際大学医療保健学部看護学科  
淑徳大学看護学部看護学科  
甲南女子大学  
看護リハビリテーション学部看護学科  
北海道文教大学人間科学部看護学科  
畿央大学看護医療学科  
三育学院大学看護学部看護学科  
神戸常盤大学保健科学部看護学科  
関西医療大学保健看護学部保健看護学科  
山陽学園大学看護学部看護学科  
西武文理大学看護学部看護学科  
東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科  
日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科  
広島都市学園大学健康科学部看護学科

<https://doi.org/10.32283/rep.c917a15b>